

上余白=20mm

# 土木学会北海道支部論文報告集原稿見本

論文題目=14pt、  
センタリング

Manuscript sample of proceeding of Hokkaido chapter of JSCE

1行空ける

1行空ける

建設大学工学部土木工学科	正員	土木太郎 (Taro Doboku)
(株)建設組設計部	フェロー	設計次郎 (Jiro Sekkei)
土木短期大学建設工学科	学生員	建設花子 (Hanako Kensetsu)

2行空ける

## 1. まえがき

本年度より執筆要項が変更となった。ページフォーマットはこの作成例に従うことを原則とする。論文題目は文字サイズを14ポイント、太字を使用する。英文題目は9ポイントとする。これらはセンタリングする。英文題目の上下に1行の空白行を設ける。次に勤務先、会員種別、著者名及び英文著者名を右に寄せて書く。文字サイズは9ポイントとする。口頭発表者には会員種別の前に印をつける。

## 2. 本文のレイアウト

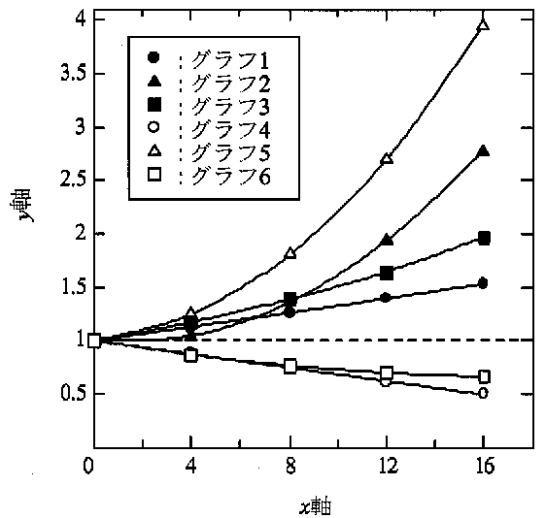
著者名の下に空白行を2行儲け、本文を書き始める。本文は2段組、文字数25文字、行数54行とする。文字数と行数の多少の違いは許容される。文字サイズは9ポイントとする。2ページ以降は第1行目から書き始め、同様に2段組とする。原稿内にはページ番号や、その他ヘッダー、フッター等を記入してはならない。章、節、項の番号は3. 章の番号、3.1 節の番号、(1) 項の番号、のようにすることを原則とする。

左余白=20mm

## 3. 図、写真及び表

図表、写真は原稿用紙に貼付けた状態でPDF化すること。別ファイルにはしないこと。図は例えば図-1とし、図のタイトルと共に図の下に、表は例えば表-1と

し、表のタイトルと共に表の上に表示する。図表中に書かれる数字、記号等の文字サイズは、本文と同じ文字サイズを使用すること原則とする。



右余白=20mm

図 - 1 図の作成例

## 4. 内容

論文内容は原則として未発表のものとし、一般会員が容易に理解できるように、目的、考え方・結論をわかりやすく記述し、論文として完結するものとする。特に数式の羅列を避け、採用した手法の特色やその論文・報文の活用面などが分かるようにする。

## 7. あとがき

論文の最終ページは参考文献で終わるものとする。参考文献は<sup>1)</sup>この例のように上付き右括弧付き文字で指定する。もし付録を置く場合には参考文献の前に置く。2段組の両側の最下行はなるべく同じ高さとなるようにする。

## 参考文献

- 1) 土木工事、建設一郎：土木施工に関する研究、土木学会論文集、No.123/I-456、pp.12-34、1999.
- 2) 構造次郎、橋梁計画：仮設構造物の安全性に関する研究、仮設学会論文集、No789、pp.56-78、2000.

下余白=25mm